

総務文教委員会記録

令和2年11月19日（木）
13時36分～15時21分
第4委員会室

- 【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員
- 【委員外】
- 【議長団】
- 【事務局】 下間書記
-

【議題】

- 1 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員のみ）
 - ・ヒアリング結果による課題について

2 その他

【議事の経過】

[13 時 36 分 開議]

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を開会する。出席委員は7名で定足数に達している。牛尾委員は遅れるとの連絡が入っている。
早速始める。

1. 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員のみ）

・ヒアリング結果による課題について

西村委員長

前回に引き続き、園にヒアリングを行った結果について、前回は(3)までが終わり(4)市への要望と(5)その他が残っている。

この表に基づいて意見を簡単に述べていただきたい。1番のちどり保育所から。

西川委員

どの園も結構こういう話をされているが、発達障害のある子の入所について事前に情報がないとのことで、かなり苦勞されている。事前に情報がいただきたいと。発達が気になる子が多い。

その他、保育士へのメンタル面での支援が必要ではないかということ。

永見委員

ヒアリング結果による課題の4番についてではないのか。

下間書記

はい。改めて一覧表を送る。

事前に委員に課題を出してもらった。これは提出された方のものだけが載っている。

西村委員長

では西田委員からお願いします。

西田委員

各園の浜田市への要望から自分で考えた課題だが、配慮が必要な子どもたちや特別支援教育に関するコーディネーターなど、サポートがもっと必要だという意見が複数の園からあったので、人材確保や対策を市に要望したい。

また、小規模園では園児数が少なくなり財政的に厳しくなっていることに対して、市はどう考えておられるのかを課題として出している。

幼稚園と保育園の違いだが、ゼロ歳から3歳までも非常に重要だとのことで、保育園はゼロ歳から3歳まで、その後に幼稚園は幼稚園の機能として、幼稚園に行かせたい親がおられ、4歳から幼稚園に移行する可能性の検討が今後必要ではないかという声もあったので、それも課題として挙げている。

西村委員長

西田委員が最後に言われたのは、ほかにも同じような意見があった気がする。どこだったか思い出せないが、次、永見委員。

永見委員

3点挙げている。保育士の確保が難しいという声がある。

2番目に私が伺った園でもこの話が出たが、福祉バスの台数が減っている。また、スクールバスの利用回数が決まっているのでなかなか野外活動が難しく、できればスクールバスの利用回数を増やしてほしいという声があったので、市に考えていただきたいためこへ挙げた。

3番目に保育園周辺の歩道や環境整備。これは私が個人的に園に行ったときに、園周りの歩道とのバリアフリーについて考えてほしいという声を聞いたので、あえてここに環境整備を挙げさせてもらった。

西村委員長
上野委員

引き続き、上野委員。

各園で聞いたままをここに書いている。

先ほどから話があるように、特別支援が必要な子どもが大変増えていて苦慮しているとのことで、それに対応する職員が不足しているという声をあちこちで聞いた。また、3歳前に人間の能力は80%成長するため、ゼロ歳から3歳までの基礎づくりの時期が大切である、そこにもっと力を入れてほしいという声があった。また、産前から地域とのつながりがあればよいが、ない人を何とかして支援しなければならない。例えば旭でも島根あさひ社会復帰促進センターによそからこられている方は地域とのつながりがなく、公民館でもそういった方の孤立を防ごうとできるだけ接触しようとしていたが、市内においても同様なのだと。産前から地域とのつながりをつくっていくことが必要だと感じた。

先ほど言ったように特別な配慮を必要とする子どもの対応に、保健師や養護学校の先生との連携を強化する必要があるのではと。一番下に書いたのは、カトリック系の保育所の関係だが、他の園のように情報が入ってこないという言い方をされた。平等にしてほしいとお聞きした。また、市に聞きに来てほしい窓口がわからずたらい回しにされたため、振り分けをしてほしいとお聞きした。

最後に言われたのは夕日ヶ丘幼稚園か。

はい。

次は三浦委員の(5)その他について。

山間部に立地する保育所において、通勤時間がかかることもあり、人材確保がネックになっているというお声があった。

過疎手当的なものによる行政サポートがあると、中山間地における保育所でも人材獲得がしやすいのではないかというお話だった。

また、保育士を育てていく機能を求めていらっしゃる園が複数あった。資格を取るために県外流出するケースがほとんどで、ここに何か手立てを考えないと、研修を県外でやったりするとそのままそこに就職する流れがあるので、県立大学等々と交流促進することも有効ではないかというようなお話があった。

もう1点、公立幼稚園のサービス向上を求められているが未着手という件について、保護者会から要望がずっと上がってきてはいるものの、給食、預かり部分の対応ができていない。これは幼稚園統合の方向があったときにも出ていたが、定員割れがより深刻になる恐れがあるのではないかということで、こちらに書かせていただいている。

芦谷副委員長。

4番とも関連するのだが、くもぎ保育所とあさひ子ども園で感じたのだが、制度や仕組みや思いがあってもなかなか行政に意見が届かないということがあった。それを思いながら書いたのは、子育て支援策の充実については国、県、市、それから教育委員会の福祉部門、公立私立、認可と無認可、こういったところの格差や、いわれない壁があること。

市として門戸を開いて公立、私立や施設を超えて、国県とも連携しながら一体となった施策が進められるよう、機関間の総乗り入れ、体系的な情報発信が必要であると感じている。

西村委員長
上野委員
西村委員長
三浦委員

西村委員長
芦谷副委員長

西村委員長
西川委員

西川委員。

公立幼稚園のあり方について。この間の執行部が示された答申にあるように、幼児教育における教育力向上の機関となるために、今はあまり方針がしっかりしていないが、しっかりした方針のもとで体制を整備する必要があると思う。

また今回感じたのだが、幼稚園と保育園の溝ということで、どうしても幼稚園は教育に重点を置いている。

保育園も指針で教育が求められ新要綱が進められているが、保育で目いっぱいになっているようである。

今回、公立幼稚園が教育センター機能を充実させて、保育園にも幼児教育という教育ができるような要の施設となって確立することが重要なこと。公立幼稚園のあり方について考えた。

西村委員長

大きく分けると(5)までとなるが、(1)で言うと園の特徴、(2)の幼児教育の考え方、(3)社会教育と各園の連携、それぞれの大枠の中で多い意見としてくれるようなものが幾つかあるというのは、多分共通した思いではないか。

集約できるものは、集約してみたらどうかと思っているが、どうだろうか。各項目ごとに、1つに絞らねばいけないこともないが。

例えば、支援が必要な子どもに対してどのように教育を行っていくか、それが1つのテーマになりそうだという思いを皆持っているのではないか。どうだろうか。もし絞れるものがあれば絞って考えてみたい気はしているのだが。

西川委員

委員長が言われた、特別な配慮が必要な子ども、発達障害の子どもに対する教育のあり方は、人員体制を含め、どの園も悩まれているので1つのテーマになると思うが、私が個人的に思っているのが、この間、執行部から示された公立幼稚園の統合について、今のタイミングで議会として何か提言をつくったほうがよい気がする。

委員会として園の話は聞いたが、保護者の話を聞いてないので、できれば保護者へのヒアリングを一度行ったほうがよいと思っている。

今回としては発達障害などが1つのテーマになると思うが、それとは別に今のタイミングで統合の方針が出たのでそれについて。

西村委員長

要するに行政として考えたときに焦眉の課題として考えたほうがよいのではないかとということか。

西川委員
西村委員長

はい。今のタイミングで委員会として提言内容を出すべきかと思う。

それが西川委員の意見ということで。一通り全部聞いてみたい。

例えば(2)のトップにある三浦委員が言われた、市の幼児教育の考え方がなかなか現場の先生や保育士にまで浸透していない実態がある。

これはどちらかといえば、研修の部分にあってもよい意見だと思った。そういうのも1つのテーマとして挙げられるのではないかという気がした。

いずれにしても意見を出してほしい。

三浦委員

(1)から(5)までヒアリングの項目を分けているのだが、全体として捉えたときに、まず幼児教育の考え方についての大きな部分、委員長もおっしゃったようにその考えがどういうもので、それをきちんと浸透させていく必要があるというのが課題の大枠の1つとしてあると思う。

その上で、保育園ないし幼稚園の現場の先生たちが抱えている現場での課題感というのは、スキルアップになかなか時間が取れないとか、出ていけないことへの工夫が必要だとか、支援が必要な子どもたちへのサポートの仕方、そこに対する行政支援が何かできるのかもあると思うし、共育もそうだがゼロ歳からと言っているが、例えば地域との連携、これは社会教育施設との関係性にもつながっていく部分だと思うが、ゼロ歳からの取り組みが重要なので、共育を浜田市が推進していくなら、実際は未就学の部分が未着手なのでそこをしっかりとプログラム化していくとか、予算化していくことも課題ではないかと思う。

そうすると社会教育との連携は、地域にある社会教育施設でいえば公民館や美術館の人材活用はできる部分ではないかと思うし、提案してもよいのかなとも思う。

最後に、人材確保はどの園もすごく課題感を持っておられると思うので、そうしたところへの。今浜田市は料理人の人材確保の取り組みをやっているが、提携できる保育士の育成、高等教育機関との連携ができるのかとか、そのあたりでも5、6項目になるのではないかな。皆の意見を聞いて私はそういう部分に複数の方が触れられている印象を持った。

西村委員長

今の三浦委員の意見だと、そもそも教育の基本的なあり方を浸透させていく、徹底させていくという点で、全体に浸透させるには難しい状況があると言いたいのがために(2)に入っているということか。

三浦委員

はい。

西村委員長

全員から発言がほしい。

永見委員

幼児教育の考え方自体が浸透していない園が大半だと思うので、これは1つの大きな課題だと私も思う。それと社会教育の関係も、地域に貢献されている園もあるし、中にはそういうところが見えない園もある。そのあたりの課題も取り上げてもよいのではないかな。

全体的に、人材確保については十分だと言われる園もあったが、やはり大体人材確保が難しいと言われる園が多いように思ったので、それも含めて課題として取り上げたらどうか。

皆から挙げられた課題でもそういうのが目につくし、気になるので、取り上げてもよいと思う。

芦谷副委員長

以前も言ったかと思うが、最近考えが変わったのが、どちらかと言えば行政や親が上から目線で、子育てはこうでなければいけないという感じで、子育ての現場に何か押しつける感じがする。

この議論を含めて、もっと園の主体的な、浜田で育てほしい子どもの姿を現場で構想してもらって、それを行政が吸い上げて格好にするとか。そのためには、園との連携の中で、次の時代の幼児教育のありようなどを、いつも探っていく。そのために行政が民間や公立幼稚園に任せきりではなく、現場や親の思いをしっかりと吸い上げてつくっていく。つくったものはつくった先から腐り始めるので、毎年少しずつ微修正しながらやっていくほうが、園も学ぶし、行政も学ぶし、園に集う職員も学ぶと思う。

西田委員

皆が思っているようなことだが、育てほしい姿などもろもろが、現場になかなか伝わりにくい部分もあると思うし、それが伝わっている現

場では実行しておられると思うが、上からの方針に基づくだけでなく、各園の特徴を生かした、園独自の取り組みを園の感性として新たな教育に発展させているかどうかも1つの大きなポイントになる。そういった意味では保育士や園の先生方のスキルアップ、感性、園の人材が非常にポイントになってくるのではないかと思った。

上野委員

幼児教育を浸透させるということで、園によっては似たようなことをしているが、果たしてそれが沿っているのかどうかという言い方をされる園もあった。きちんと沿わなくてもよいではないかという言い方をされる園もあった。指導がなくなってなかったからそういう格好だと思う。幼児教育の大事な部分を浸透させる努力をしていかないといけない。

それと、人材が一番不足していて研修にもなかなか行けないという声があったので、まず一番大事なのは、ある程度人材確保する必要があるのではないかと思った。

三浦委員

執行部が幼児教育センターを浜田市につくると提案しているが、園を回って、どの園の先生たちも、第三者機関の方々に実際に現場に来て、ご自身がされている保育の現場を見ていただき、これでよいのか、他にやり方がないかという不安に対して、確認やアドバイスをいただけるのはありがたいとおっしゃっていたのがすごく印象的だった。

したがって、今は県が設置している幼児教育センターは現場の先生から間違いなく求められているものだと思うので、執行部の提案もそれを浜田市としてやっていきたいというものだが、委員会として、共通認識として、ヒアリングの中から持っていたのであれば提言の中に、幼児教育センターの役割を持った機関を設置してそのサポートに努めるべきという趣旨の提言は有効なのではないかと思う。

執行部の案は出たが、まあ予算獲得もできていない話なので、それはしっかり取っていくべきだということを提言内容に盛り込んでもよいのではと思う。

西村委員長

皆一通り発言をされた。幼児教育センターの関係でいうと西川委員も言われたが、私が気にかかっているのが公立幼稚園の統合問題というよりは、激減状況が来年度どのようになっていくのか。本当に2年ちょっと先に公立幼稚園として園を構えて、一定の先生もそこで子どもたちを教育しながら、教育センターとうまく協働歩調を取りながら、お互いに刺激になって、相互作用でよい方向へ向かうような関係になるのか。そういう不安が現実問題として出てきている気がする。

三浦委員

幼児教育センターを浜田市が設置する、しないというのは統合問題にかかわらず、そういった機能を市として独自に持つべきだと私は思う。

統合をすることでその機能をそのタイミングで設置するというのは、話を巻き込んで、ごちゃごちゃしているが、話が違うのではないかと思う。要するに別で考えても、もちろん機能をどこに持たせるか、人材をどう配置するかがかかわってくるが、その機能を浜田市独自で持つか持たないかは、仮に統合をしないにしても、そういうものは持つべきではないかと私個人的に思う。

西村委員長

私もそれはそう思う。ただ現実問題、夕日ヶ丘も含めて幼稚園は規模的に2年先どうなるのか。仮に統合しても組織として在園児10人もいるか

いないかのような規模にまで縮小される可能性も十分あると見ている。そうすると果たしてうまくセンターの理論や思想が、幼児教育の幼稚園の部分でどれだけ機能するのか、検証ができるのかという不安が、ここにきてすごく危惧するようになった。

だからといって教育センターを市が新たに始めることへの疑問はさらさららないのだが。全体の必要性から考えれば大きな方向性として大賛成である。我々の提言の1つのテーマとして考えることも否定はしない。やってみなければわからない部分まで心配しても仕方がないと言えばそうなのだが。

提言するのであれば、幼稚園を現実的な存在として発展させていくような提言にまで持っていく方向性もないといけないような気がする。そのことを議論してほしいわけではないが。

市が幼児教育センターを設置する方針を、幼稚園の統廃合に絡めて明らかにしているし、県もだいぶ前から言い始めていることについては、皆前向きに受け止められているのではないかと思うが、こういう中身にしていすべきだとか、してほしいとか、提言の方向について考えることについて、どう感じているか。

上野委員

教育センター設置についてせっかく前向きな話が出たので、加えたほうがよい中身について話をしたほうがよい。公立幼稚園の将来が心配先立つわけだが、それもこうしたらよいという提案が必要な気がする。

西村委員長

西川委員が言われた、幼稚園の統合方針について、委員会で1つの意見としてまとめて提言する方向がいいのではないかと。

西川委員

はい、タイミング的に。

西村委員長

皆、どのように思うか。

永見委員

西川委員が言われたことは私も理解できる。幼稚園児がここまで激減していることに関しては、この前の新聞報道にもあった、預かり保育や給食の問題をクローズアップして出たこともあるので、そのあたりも。今回、長浜幼稚園に行かせていただいたときにも給食問題の話が園から出たので、それも幼稚園生が激減している大きな原因ではないかと思う。統合幼稚園にしても、園児の確保がかなり難しい状況になってきやしないかと思う。それも大きなハードルではないかと思う。

今は給食を1か月に1、2回しているのを、保護者としては回数を少しでも増やしてほしいという意見が多いわけなので。確かに統合しても園児の確保が難しいかとも思うが。全市からそこへ向けて通う状況になるのだから、ますます園児を集めるのが大きな問題になってきやしないか。送り迎えの問題も当然あるだろう。私立の夕日ヶ丘幼稚園と公立幼稚園でどう違うのか、私もはっきりわからないのだが。

西村委員長

今大きな話題になっているのは、公立幼稚園の統合の話と、それと関連はするが幼児教育センターを浜田市が新たに設置して、幼児教育に力を入れていくこと。

この2つについてこの委員会の大きなテーマとして、できれば委員会提言に持っていくために、課題として取り扱うものがあると思うのだが、今それ以外にもし、保育士や先生の研修の問題や、特別な支援を要する子どもへの対策、対応問題や、多分もう2、3挙がるのではないかと思う

のだが。ただ、それをどうするかとなると、最初に挙げた2つの問題だけでもかなり厳しい状況ではないかと思う。

西田委員

幼児教育センターが開設されることは私も前向きでよいと思う。この間の資料を見たら教育センターを開設することによって幼児教育施設の教育力向上や幼小接続への支援対策強化が置かれているが、私はそれはあくまでも行政や大人側の考えであって、本当に大事なものは、子どもたちがいかに主体的に物事を考えて、主体的に動き育ってほしい姿になるか。主体性をもっと重視することを主眼とした幼児教育センターということ盛り込んでほしい。

今回の統合にしても、子どもの数が減っているからという行政的な考え方で簡単に統合する。とりあえず今はこれくらい減っているから今ある3つの幼稚園を1つにする。それも施設の規模と新しさによって、また、距離的なものも考え真ん中にする。それと海洋教育とかいうものも付いていた、本当はもっと子どもを主眼に置いたら、もっといろいろなところから議論しながら、多様な考え方があって当たり前だと思う。

だから悪い言い方をすれば、机上でできる考え方。そうではなく、長浜幼稚園が海洋教育に適していると言われるなら、美川の幼稚園はもっとこういうことがある、幼稚園には独特のこういうものがある。場合によってはそこにしようということも子どもを主眼にすると考えられることだ。

本当の教育環境の魅力とは何なのかを、もっと現場に行って議論することが重要かと思う。幼児教育センターは子どもの主体性を育むことを中心に、行政の考え中心ではなく、子ども中心に、ベストな環境を選んでほしい。中身のある幼児教育センターを開設していただきたい。

西村委員長
西田委員

非常によくわかる。それがスタート地点の考え方だと思う。

ゼロ歳から3歳にしても、小中学校の児童生徒、全てにおいて教育委員会や我々大人の考え方は、子どもを主体に考えてあげないと、大人の都合で進めている。

そうではなく子どもを中心に考えなくてはいけない。子どもの身になって。年齢相応の免疫力をつけたり、抵抗力をつけたり、いろいろなことを経験しなければいけない。その一番大事な部分を大人の都合でやってはいけないという気がすごくする。

西村委員長

こういう大きなテーマを選ぼうと思えば、AかBかみたいな話ではなく。例えばAが市の方針で、Bを提案しようと思えば全く視点が違う何かでこちらは提案しないと、意味のあることのように思えない。

西田委員

何種類かの提案をして、大多数は恐らくこれだろうと皆が賛同するものというだけの選び方ではなく、将来的には案外Cのほうが適しているかもしれない。

西村委員長

幼児教育というものに、そもそも自分は何を求めるのかの議論が湧きたつように。それがベースになっていくのだろうと思う。

アンケート結果が何年か前と比べると幼稚園への入園希望が半分以下くらいまで下がっているデータがなかったか。何のためにあのようなデータを出したのか聞いてみたい。

西田委員

10月26日の総務文教委員会の資料の「公立幼稚園の今後のあり方

(案)」にある。

西川委員
西村委員長

17.7%が6.1%になったとある。

それだって考え次第で、公立幼稚園の希望が極端に減っていることは数字を見ればわかるが、なぜ減ったかはわからない。そこが非常に突っ込みどころなのだが、分量の問題もあるので私がそこだけ突っ込んで私が批判しても仕方がないが。

西田委員

幼稚園、保育所、認定こども園を比較して、優位性がなくなったから数字的に幼稚園が減ったのか。優位性だけの問題か。

西村委員長

唯一、負担が軽いというのが優位性だったのだが、それがなくなってきた。要するに私らが議論する必要があるのは、保育園なり、認定こども園には、ないというか、欠けているすばらしいものが幼稚園なり公立幼稚園の教育にはあらしめるのだというものがないと、保護者の需要がなくなれば幼稚園の必要性はなくなる。

西田委員が言うのはそうではなく、単に親の要望ではなく、幼稚園は保育園にはない、こういうよさ、すばらしさがあるのだというものを、親も理解して幼稚園に子どもを通わせたいようになるようなものを自ら自身が高めていく必要があるような気がしている。

西田委員

現実、幼稚園に行かせたい親もおられるのだが、ゼロ歳から3歳までは保育園に行かせて、途中からというのが連携の問題になる。

《 牛尾委員：遅れて会議に出席 》

西村委員長

今、各委員が項目ごとに出した意見から、集約できそうなテーマがあれば課題別に集約していけたらと議論している。

提案と言えば提案なのだが、先ほど西川委員も言われたし三浦委員からも話があった部分で、幼稚園の保護者から統合問題でいろいろ意見が出ている。それについて話を聞きたいという意見も出ている。

私としては幼児教育センターの問題と公立幼稚園の統合問題について、委員会の提言につなげることができたらということがあったのだが、今までは、どちらかといえば先生や経営側の立場や市の考え方、ある意味一方的な部分の聞き取りを行ってきたわけで、保護者側の話は個人的には聞いているのだろうが委員会としては聞いてない。

そのことについては、後で議論しようかと思っているのだが、そういったことも経験した後でもう1回、大きなテーマだし議論したらどうかと思うのだが。

牛尾委員
西村委員長
牛尾委員
下間書記
西村委員長

統合問題については、今回通告を何人かされているのではないのか。

多分されているだろう。知らないが。

僕はしている。

何件かあったと思う。

公立幼稚園の統合問題と、これは保護者と会うのとは直接関係ないと思うが、幼児教育センター設置の問題が1つテーマの候補として挙げられたというか。候補としては考えてもいいだろうか。

(「はい」という声あり)

牛尾委員

今回は複数の人が統合問題について質問されているので、それを参考にしながらやっていくのも1つの考え方かなと。

執行部がある程度いろいろな答え方をするだろうからその答弁も踏まえ

て。何もない中で教育委員会といろいろやったが、僕らは現場も見てきたので、その上で再度意見交換をすればよいと教育長に伝えたと、それはいつでもよいと言われた。リップサービスかもしれないが。現場の声を聞く中で教育委員会と話をすれば、僕らのレベルも上がったろうから、それはそれで違うのではないかと。

西村委員長

そういう議論は議論として、相互に影響はあるのだろうが幼児教育センターのあり方問題については1つテーマとして提言につなげていくようなことは考えてもよいのではないかと、ということでの提案か。

三浦委員

重複する部分もあるかもしれないが、幼児教育センターの設置と統廃合問題は、一緒なようで一緒ではない問題だと思う。

この間の執行部の提案を聞いていても、公立幼稚園に併設する理由は明確に示されたものではないとまだ思っているし、子育て支援センターや今持っているサポート機能の整理も十分議論し尽くされていないし、極端な話かもしれないが、公立幼稚園として残すのがよいのか、認定こども園のやり方はどうなのかなど、そこまでの議論を執行部もしていないとのことなので、子どもが預かれる場所を公立でやるべきなのかという議論は、この中でもされていない話である。

それはそれでしっかりやるべきである。とはいえ、幼児教育環境をどうするかという話も一方で、今このようにヒアリングさせていただく中で出てきた部分があると思うので、それはそれで粛々と話ししていくべきではないかと思う。

統合問題については、市からの一応の方向性が示されたタイミングなので、今委員会として出すのはどうかと。今がよいのか。

西村委員長
牛尾委員

それは私も判断しかねる。

教育委員会に一本柱がない。一旦は6億7千万円の予算について署名をつけて統合幼稚園を作るといふところまで、上げているわけだが、また落として、今回は長浜幼稚園が比較的新しいということで、しかも市のセンターだからと。どこからどこまでのエリア内でセンターと言っているのかなど、いろいろな問題がある。

その辺はもう少し、半分、行革の中でなるべくお金を使わないように1園残すから長浜幼稚園、というような考え方は違うと思う。もっとゼロベースで。認定こども園という制度ができたときに公立幼稚園は全てなくなるという予想があったのに何もしていないのだから、その辺も含めてこの問題は徹底的に議論すべきではないか。短絡的に長浜に統合すればよいという問題ではない。

なぜ予定がひっくり返ったか、今の少子化の中で公立幼稚園が本当に必要なのかどうかを含め、議論をまだしていない。公立を1つは残さねばならないというが、その根拠はどこにあるのか。

その辺を委員会として、公立を残すか残さないかも含めて議論しておかないといけないのではないかと。

今までその辺がおざなりになっている気がする。役員の期待を裏切ってきたこともあるし、ちゃぶ台返しをされた気持ちもある。教育委員会もお金を持っていないからかわいそうだという声もあるが。

西村委員長

それは違う。

- 牛尾委員 ええ、それは違うと思う。今のような話も含めてどこかで徹底的にやってみるのはどうか。
- 西村委員長 いずれにせよこの2つの問題は、今のところ提言に向けて取り上げる2大テーマとして捉えようということ、ほぼよいのではないかと。
- 牛尾委員 それで、保護者との問題もあと議論すればよいのではとっている。
- 牛尾委員 今回、特に中山間地域の保育園に行ったときに、寒冷期に冬用タイヤなどのコストがかかるというので、園として一定の面倒はみるがなかなか十分ではないと。園として十分な手当をしているわけではないと。職員が限られている中で、職員の待遇を一定レベルまで維持するためには、冬場の厳しい環境という弥栄と杵束か。寒冷地手当というのが10年くらい前まではあった。弥栄と杵束は17人の保育士全部、旧市内から通勤なのだそう。旧市内から通勤者がおられるなら、例えば12月から3月の冬季は冬手当を1人5千円出すなど、職員の補充が難しい中でいえば、今いる職員に居続けてもらうためにはそのくらいの提案をすべきではないかという要望をできればしてほしいとっている。
- 西村委員長 要するに季節的な手当か。
- 牛尾委員 はい。そういう話が出て、それはそうだなと思った。人が少ない中でそういう手当を、出してはいるが十分ではないので何とか考えていただけないかという話があった。他の園でもそういうこともあるかと思う。
- 西村委員長 三浦委員の文章を読むと、山間部に立地する場所では特に人材確保が困難となっている。何か、それは感触なのか、データのようなものがあるのか。
- 牛尾委員 データはあると思うが、弥栄も杵束も全員旧市内から通っているから、寒冷地手当を若干は出すが十分ではないと。
- 西村委員長 それは保育士が言っているのか。
- 牛尾委員 はい。弥栄と杵束で17人。おそらく旭やその辺も、旧市内から通っている保育士はそういうことがあるのだろう。今いる職員の処遇改善をしたいが、できるレベルとできないレベルがあるので、特に中山間地の保育士に対して、そういう言い方をされたので。
- 西村委員長 全員が旧市内からとは意外だ。3分の1くらいは地元の職員だろうと勝手に思っていた。
- 牛尾委員 実際は地元の方ではない。聞いたこちらも驚いた。全員が旧市内だと。園長以下皆そうだとすることで驚いた。
- 西村委員長 しかし、実際、例えばそういった手当を配慮して、厚遇して、人が来るかといえば何人いるかという話。
- 牛尾委員 考え方で、今いる職員を引きとめようと思うと一定の手当をしないとイケないが、園ができることには限界があるから。寒冷地だからそういうものがあるのだから。そういうものを出すことで定着率を保てないかと思って。1人月5千円の手当で冬季の4か月分なら2万円、2万円かける例えば30人でも大した金額ではないので、市もそういうところで働いている方の処遇については一定の考えを持っているという意味でも、大きな金額でもないし必要ではないかと。できれば委員会全体の要望事項として上に上げていただければというのが僕の希望である。
- 芦谷副委員長 大事なことではあるが、小国、杵束、旭は皆あるが、前言ったように、

西村委員長
牛尾委員

できれば園同士の自主的な取り組みとして協議会があるのだから、そこでまとまって要望するように仕向けたほうがよいのではないか。以前、ちどり保育所の先生とくもぎ保育所の先生が県の連盟役員なのだ。できれば浜田でまとまって市へ要望するといった機能があれば、幼稚園、保育園の運営方向にもつながると思う。何となく現場がばらばらである。

しかし一定程度でそれはやっていると思う。

一定程度やっておられるのは間違いないが、それでは十分でないという声があるので、できれば考えてもらえないかということだ。

園と園をまとめる云々の話は、聞こえはよいが現実問題としてまとまりにくい。逆に言えば、僕らはせっかく聞き取りをしたので、聞き取り内でそういう声があつて、それができるなら手当をしてあげても、議会提案でいいかなど。何のために僕らは聞いて歩いたのか。結果を出す必要があると思っているので。歩いた以上は幾らかの結果が出したい。

西村委員長

それを強く思ったのは、保育士の資格を取るための学校が島根県内にならないから県外になる。多分連名で要望を出して、効果が出たのだろうと思う。それに応えるような施策のニュースが、割と最近流れていた。言い方は悪いがお金で済むような割と単純な考え方に基づく施策は、この議論も長時間必要だとも思えないし、ここで簡単にまとまるような施策については上げていってもよいのではないか。むしろ上げるべきではないかと思う。

牛尾委員

そういうものも議論の対象にすればよい。具体的な先生からの提案があつたように先ほどから見ているのだが見つからない。

もう1つあつたのは、正確に覚えてないのだが、保育者のモチベーション。例えば10年勤続したら市長もしくは教育長が表彰するとか、そういうものが必要なのではないかと。みのり保育園だったかで、賞状1枚でも励みになるという話があつた。それも1つの方法論である。

お金をかけなくてもできることもあるし。

西村委員長
牛尾委員

園ではなく市の施策としてということか。

寒冷地手当を出すことよりも別枠で、今回聞き取りをする中で提案してもよいのではないかと。

西村委員長

簡単に意見が出てまとまるような施策であればよいし、提案すればよいと思う。

牛尾委員

僕ら個人個人が言うよりも、委員会として聞き取りする中でこういうことをやるべきではないかと。ただ園もそのようにやっておられるそうなのだが、それでは十分でないのだと理事長も園長もおっしゃって、してもらえばありがたいと言われたので、それを真に受けて帰ったのだが。たいしたことではないが細かな気遣いも、人手不足の中でいえば貴重なことなのではないかと。現場に行かせてもらって気がついたが、行かなければ気づかなかつた。

芦谷副委員長

個別な要望があつたと思うので、それも含めて個別要望と、大きな問題等を、各委員から何項目か自分の気持ちを整理しながら、さらに絞り込んで出してもらってまとめていったほうがよいのでは。

西村委員長

そういう提案もあつたがどうか。私もそれはよいと思うのだが。いわゆる重いものと軽いものというか。

芦谷副委員長

1項目、個別要望みたいにして。方向性も含めて整理していけばいいなと。

西村委員長

具体的な施策を個人個人が挙げていくということか。

芦谷副委員長

提言を。なるべく絞って。

西村委員長

そういう提案があったが、次回にそれを、具体的なものとしてこの場に。

牛尾委員

すでに予算決算委員会が終わっているの。しかし年内に話がまとまればここでまとめて、市長要望するのがよいのか、議長に出して議長から市長に要望してくれと頼むのがよいのか、どちらがよいかわからないが、委員会としてまとめれば市長部局に申入れしてもおかしくない。

下間書記

現在の特別委員会の提言はそのような感じである。本来は議会から議長名で出すのが筋だと思うが。

牛尾委員

最近では委員会の独立性が重視されていて、そういう出し方もよいのではないかと思う。

芦谷副委員長

4項目に沿って各委員が最高1つずつ、なるべく絞って。そうすれば中で整理していけば。事前に出していただいて求めていく、ということかどうか。

牛尾委員

無理して絞らなくても。出た意見がなるほどそうだと思うものはまとめて委員会として要望するのでもよいのでは。

西村委員長

最終的には調整を図ればよい。

牛尾委員

三浦委員と僕は同じ班だったが、三浦委員が僕と全く同じ考え方かといえは少し違うと思う。職員のモチベーションのために表彰規定があればお金もかからないしよいということと、寒冷地手当などの処遇改善。

西村委員長

その方向でよいか。

永見委員

1から4の項目それぞれ。

西村委員長

それぞれにできるだけ具体的な提言というか施策というか。

永見委員

それか、1から4の中で拾って、全体の中で。

西村委員長

いや、いくつ出されてもよい。

永見委員

1から4までの一番重いのと思ったものを1つ出してもいい。

西村委員長

そういうやり方もあると思う。各項目にわたって出されてもよい。今議論しているベースは、各園からこういう意見があったということで議論しようというわけだから。それを聞き取った自分としてはどういう提言になるのか、施策がよいのか、というところで次回の宿題とする。このようにまとめてよいか。

芦谷副委員長

事前に出すのか。できれば下間書記に事前に出したほうがよい。

西村委員長

後でそれも含めて日程を決めよう。

牛尾委員

あと、このメンバーで初めて各園の意向や実情を伺った。園側に見えるような一定の効果がどこかで必要だろうと思う。

聞きに来てもらってこういうところを受け止めてもらったという、要望の見える化、実現化が必要だと思う。

それはすぐにでもできることなのでやっていくということと、もっと基本的な問題と、短期と長期に分けてもらってやる。

西村委員長

要するに、目に見える、音に聞こえるみたいな部分と、もっと骨太の部分とで私たちが動いた過程なり成果なりが見えるようなということか。

牛尾委員

それがあつ程度見えてくると、例えば毎年1回のそういうメンバーで訪問するにしても、園側の方が今年も総務文教委員会が来られるからとかいうことも必要かと。応援してあげられるものは応援すべきだと思う。今までそういうことをやってこなかったのでもっと密につき合うとうか。

西村委員長

今そういう話でまとめようとしているのだが、よいか。

(「はい」という声あり)

日程的な問題はまた最後に詰めたい。

《委員間で日程調整》

では、12月8日の総務文教委員会で再度議論することとし、委員各自が考える提言案をメールで12月4日(金)の午後5時までに下間書記まで提出することとする。

2. その他

西村委員長

その他で委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

では今日の総務文教委員会を終了する。

[15 時 21分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 ⑧